



クラブを見直して、 役員全員で 会員増に取り組む

大阪府交野市 倉治老人クラブさんゆう会

● 会員数 302名 (男性148名、女性154名)



お花見会で親睦を深める

倉治老人クラブは、今年55周年の節目の年を迎えました。笑顔いっぱい絆を深め「これからもずっと倉治で暮らしたいまちづくり」の実現が今年のスローガンです。

かえりみますと、クラブは平成19年までは年々会員が減少して存続の危機にさらされてきました。転機が訪れたのは平成20年4月、奥野新会長が就任した最初の定例役員会で、会の存続の是非について全員で熱く語り合いました。

1. 高齢者が増加しているのに会員が減る原因は何か。
2. 魅力ある老人クラブにすれば会員が増える。

える：会員を増やそう。

この二つのテーマをEJ法により検討しました。当時の議事録から列記します。

会員が増えない要因について話し合う

- ① 会員加入への働きかけがほとんど無く、クラブの存在すら知らない人が多い。「誘わないから加入しない」。
- ② 行事に魅力がなく、活動内容も不明だった。
- ③ 「老人会」のイメージへの抵抗感。老人扱いは好まない人が意外に多い。

キーパーソンは、 地区役員全員

キーワードを「自分のため、人のため」として地域のため「自身の生きがい」として、解決策として次のようなことに取り組みました。

- ④ 60〜65歳でも働く現役が多くなった。
- ⑤ 保守的な地域で、新人の加入による新風を嫌がる役員がいた。
- ⑥ 会員が気軽に集まれる場所がなかった。
- ⑦ 会員が少なくなると、役員（2年任期）がすぐ回ってくるから脱会したい、等々。

- ① 倉治区17町の自治会長17名と民生委員児童委員10名に加入を勧め、全員に加入してもらった。

- ② 新会員募集チラシとポスターを35か所の掲示板に貼って訴えた。

- ③ 地区役員が口火を切り、「口こみ・ささやき大作戦」で勧誘。

- ④ 校区福祉委員会主催「いきいきサロンのメンバーを勧誘。

- ⑤ 情報誌「さんゆう会ニュース」を発刊（22年）し、行事案内・活動状況・トピックス・会員動向などを発信。

- ⑥ 「老人」というイメージ一新のため愛称を募集、「さんゆう会」に決定。
さんゆうとは三つの「ゆう」「ゆとり」「悠」、良き友の集いの「友」、遊び上手は長寿・健康の元の「遊」

- ⑦ クラブの拠点「いこいの郷」が誕生（24年）。
- ⑧ 夫婦ペア会員加入特典を設けて、年会費1人1000円を夫婦の場合1500円に。

- ⑨ 交野市連合会の諸行事には積極参加。
- ⑩ 一人暮らし高齢者への友愛訪問とお楽しみ食事を実施。

- ⑪ 町の防災マップと福祉マップづくりを推進。
- ⑫ 地区貢献活動に、多くの会員が無理せず楽

しく参加している。

● 小学校児童の見守り活動

- （1）青色防犯パトロールカー（9年目、月々金曜日、下校時120分）
- （2）ごきげんさん挨拶運動（4月〜12月の第1週、月々金曜日、登校時40分）

● ごみゼロの日、社会貢献の日清掃（年3回）、小学校6年生との合同地域清掃

● 愛のエコキャップ（ペットボトルのふた）運動（6年間で150万個）

● 地区AED&BLS（二次救命処置）実技講習会参加（10年継続中）

● 地区防災訓練&避難所訓練への参加

（副会長 青山雅宏）

※ キーパーソンとは、組織や人間関係に影響をおよぼす「鍵となる人」。

「さんゆう会」として5年目になり、地域内に浸透・定着して入会希望者が年々増え続けて嬉しい限りです。本年は50名以上の会員増を計画しましたが、9月末までの半年間に達成し、300名を突破しました。そして今、55周年記念誌の発刊にむけた実行委員会を立ち上げたところです。
「温故知新」「継続は力なり」を会員の合言葉に、更に魅力あるクラブづくりに取り組みたいと決意を新たにしているところです。



「ごきげんさん」と挨拶しましょう



AED&BLS 講習に参加



活動拠点「いこいの郷」